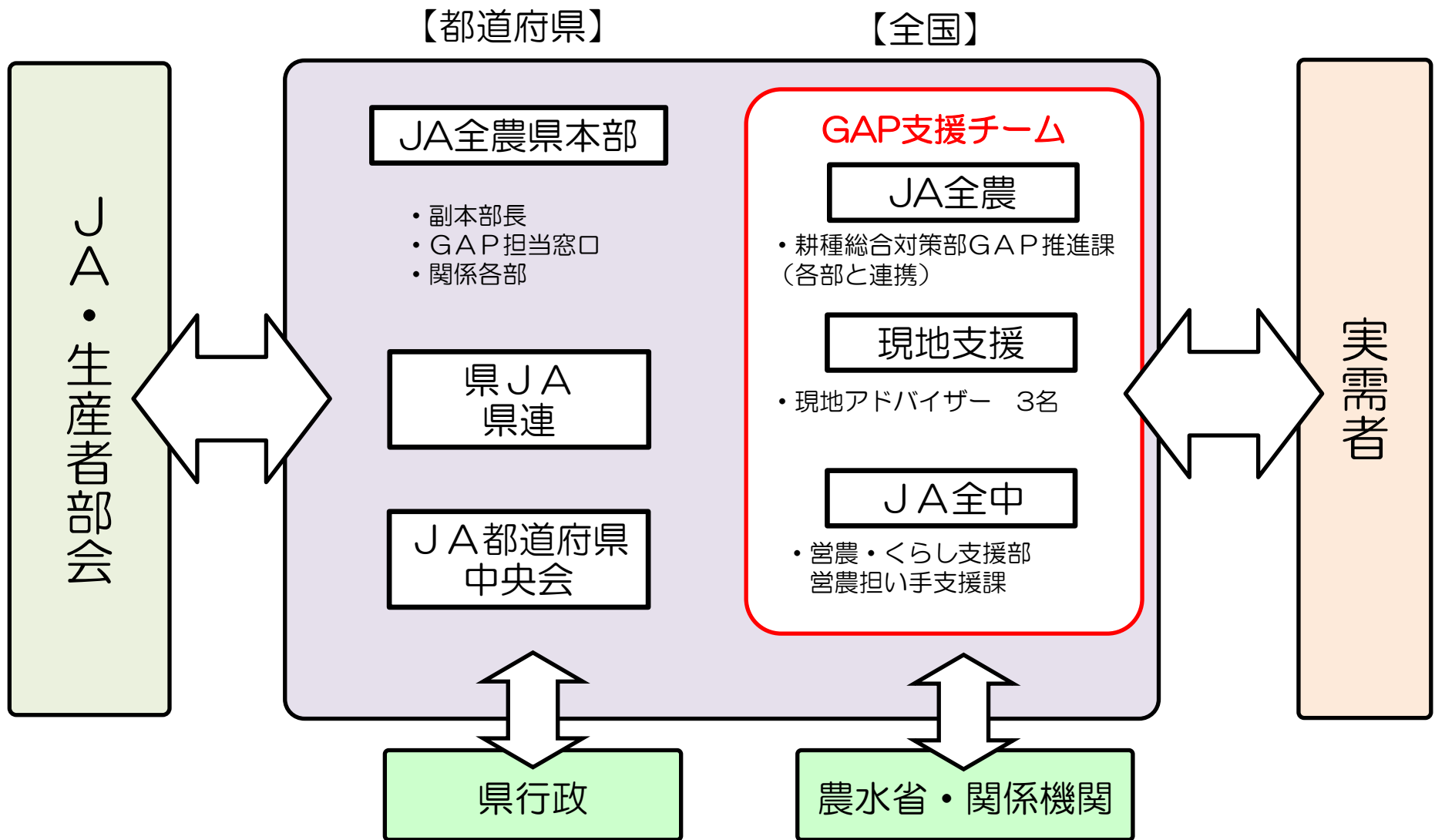


JAグループGAP支援チームの 取り組みについて

2021年11月
全国農業協同組合中央会
営農・暮らし支援部 営農担い手支援課
(JAグループGAP支援チーム)
城向 孝洋

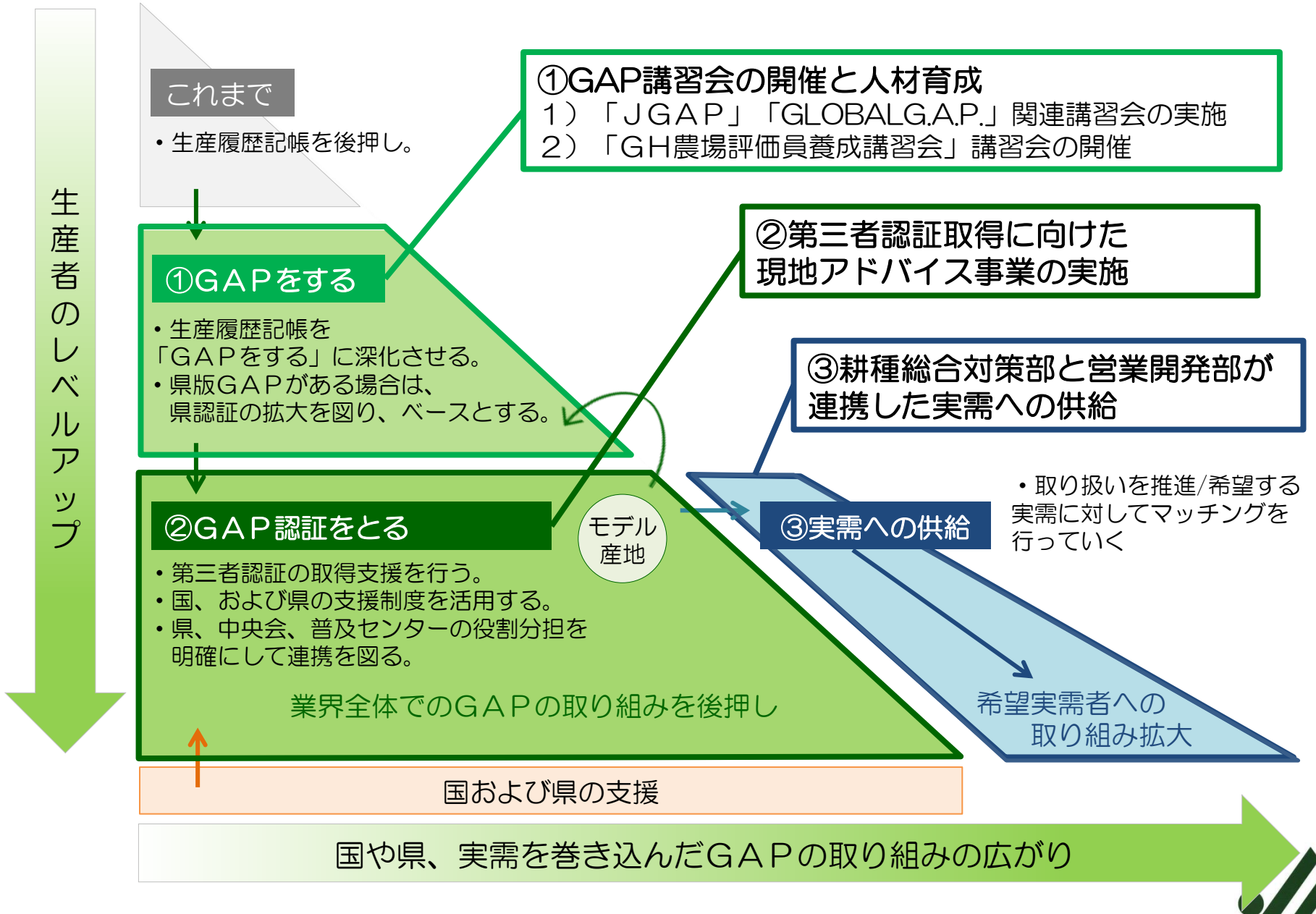
JAグループGAP推進体制



全国4連で協力し、JAグループ全体で連携して推進しています。



JAグループのGAPの方針と取り組み概要



①. GAP講習会の開催と人材育成

(1) 「JGAP」「GLOBALG.A.P.」関連講習会

- 平成29年度～令和2年度までに、計20回開催し、380名を養成した。
- 令和3年度は、10月時点で計4回開催し、106名の養成実績になっている。

講習会名	概要	H29～R2年度開催		R3年度開催 (10月時点)	
		回数	人数	回数	人数
JGAP指導員基礎研修	JGAPに関する知識習得(資格取得講習)	6回	120名	2回	73名
JGAP内部監査員研修	JGAP団体認証に関する知識習得(資格認定講習)	6回	127名	2回	33名
GLOBALG.A.P.基礎講習	GLOBALG.A.P.に関する知識習得	8回	133名	—	—

(2) GH農場評価員養成講習会について

- 平成30年度よりGH農場評価員要請講習会も開始。毎年4回程度実施。

<ポイント>

- 「GAPをする」手法として農場評価の仕組みや生産者農場での評価技術を活用。
- 生産者における問題点を抽出し生産者と問題解決に向け農場の改善を実践できる。
- 実需者の要望等によりGAP認証取得が必要となった際、認証取得に円滑に移行できる。

実施内容	H30年度		R元年6月時点	
	回数	人数	回数	人数
	2回	22名	2回	33名



生産者からの聞き取りの様子



圃場確認の様子

※GH=Green Harvesterの略
自然環境との調和の中で農業を営み農産物を収穫する人をイメージしたもの

②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

- 現地アドバイス事業での認証取得に向けた支援活動を積極的に実施。
- 支援産地の状況[実施：17県31部会（平成29年度～令和3年度10月時点計）]

支援産地一覧 その①（平成29年～30年分）

県名	JA名・県域	品目	取得GAPの種類	認証予定時期
北海道	JAようてい	ばれいしょ	JGAP	R元.11取得済
	JA新しのつ	米	GLOBALG.A.P.	R2.12取得済
青森	JA十和田おいらせ	ごぼう	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
	JA津軽みらい	りんご	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
岩手	JAいわて平泉	米	ASIAGAP	H30.10取得済
	JA新しいわて	レタス	GLOBALG.A.P.	R元.11取得済
		ブロッコリー	GLOBALG.A.P.	R元.11取得済
宮城	全農宮城県本部	トマト	GLOBALG.A.P.	H30.3取得済
秋田	JAあきた白神	白ねぎ	JGAP	R2.3取得済
福島	JA会津よつば	トマト	JGAP	R元.9取得済
群馬	JAにったみどり	レタス	GLOBALG.A.P.	R3.2取得済
新潟	JA十日町	えのき他	GLOBALG.A.P.	R元.6所得済
	JAみなみ魚沼	しいたけ	GLOBALG.A.P.	R2.12取得済
富山	JAいみず野	えだまめ	JGAP	H30.9取得済
静岡	JAなんすん	荒茶	JGAP	R2.3取得済
滋賀	JA草津市	米	JGAP	R元.11取得済
	JA滋賀蒲生町	米	JGAP	R2.12取得済
兵庫	JAあわじ島	たまねぎ	GLOBALG.A.P.	R2.6取得済
岡山	全農岡山県本部	キャベツ	GLOBALG.A.P.	R2.9取得済
広島	JA広島北部	白ねぎ	JGAP	R2.4取得済

②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

- 現地アドバイス事業での認証取得に向けた支援活動を積極的に実施。
- 支援産地の状況[実施：17県31部会（平成29年度～令和3年度10月時点計）]

支援産地一覧 その②（令和元年～令和3年分）

県名	JA名・県域	品目	取得GAPの種類	認証予定時期
青森	JA津軽みらい(追加支援)	りんご	GLOBALG.A.P.	
長野	JA中野市	きのこ	ASIAGAP	R4.夏予定
	JA長野八ヶ岳	レタス	GLOBALG.A.P.	R4.6月予定
	JA川上そ菜販売	レタス	GLOBALG.A.P.	R4.6月予定
新潟	JA佐渡	米	ASIAGAP	R4.9月予定
	JA北越後	さといも	JGAP	R4.9月予定
石川	JA松任	米	GH	
	JA加賀	かぼちゃ	JGAP	R4.7予定
香川	JA香川県	ロメインレタス、結球レタス、 たまねぎ、にんにく、 ブロッコリー	JGAP	R3.10取得済
兵庫	JAあわじ島	レタス	GLOBALG.A.P.	R4.1月予定

- 現在も支援を継続しており、順次認証を取得する予定
- また、新規申し込みも受け付け中



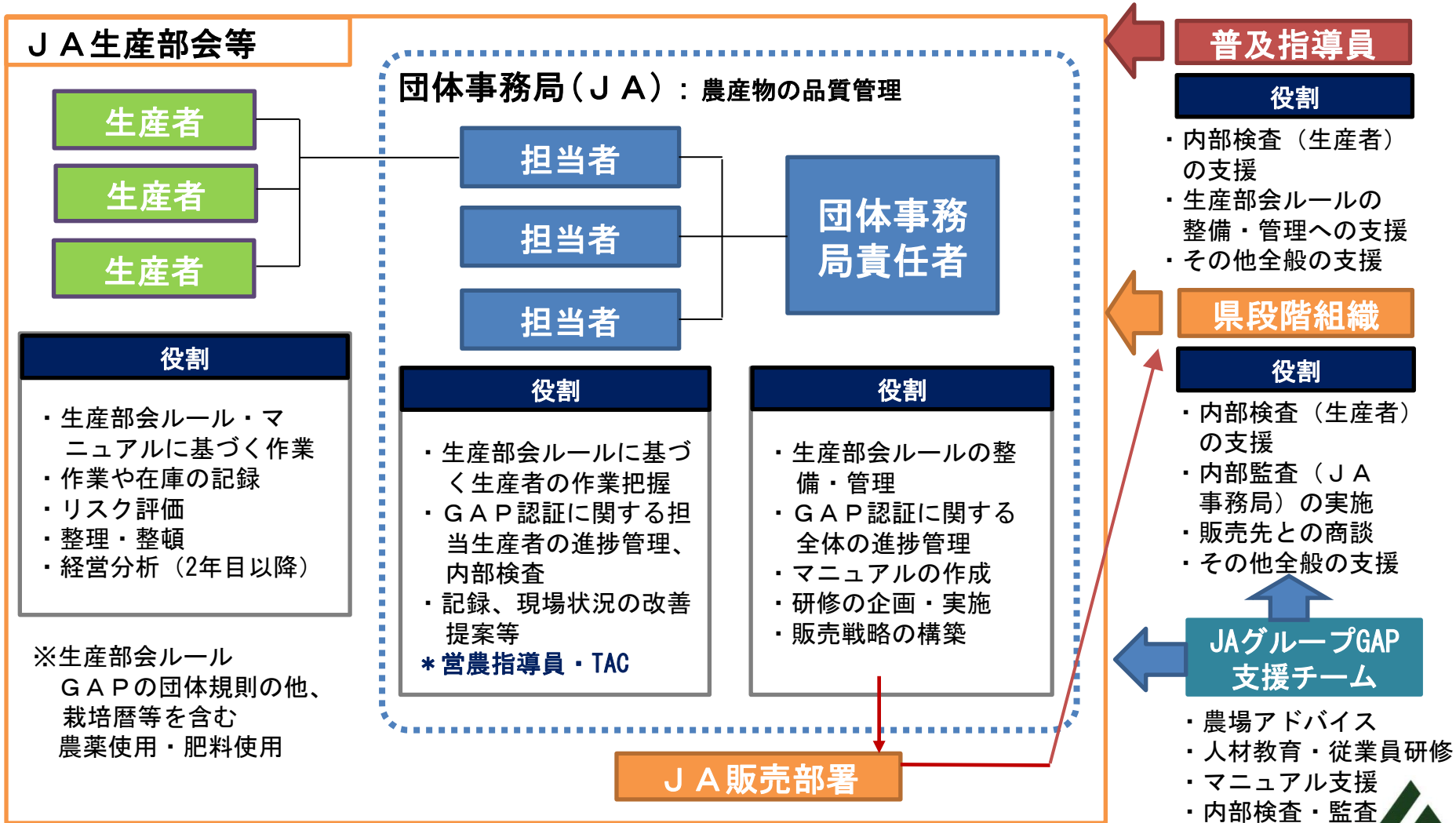
②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

支援産地一覧 東北6県および新潟県抜粋版

県名	JA名・県域	品目	取得GAPの種類	認証予定時期
青森	JA十和田おいらせ	ごぼう	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
	JA津軽みらい	りんご	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
		米	GLOBALG.A.P.	H31.2取得済
岩手	JAいわて平泉	米	ASIAGAP	H30.10取得済
	JA新しいわて	レタス	GLOBALG.A.P.	R元.11取得済
		ブロッコリー	GLOBALG.A.P.	R元.11取得済
宮城	全農宮城県本部	トマト	GLOBALG.A.P.	H30.3取得済
秋田	JAあきた白神	白ねぎ	JGAP	R2.3取得済
福島	JA会津よつば	トマト	JGAP	R元.9取得済
新潟	JA十日町	えのき他	GLOBALG.A.P.	R元.6所得済
	JAみなみ魚沼	しいたけ	GLOBALG.A.P.	R2.12取得済
	JA佐渡	米	ASIAGAP	R4.9月予定
	JA北越後	さといも	JGAP	R4.9月予定

②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

- ・ 団体認証については、団体事務局、生産者、支援部隊のそれぞれの役割分担が重要になる。
- ・ JAグループでは以下のようにGAP団体認証取得に関する役割分担と体制を構築している。



②. 第三者認証取得に向けた現地アドバイス事業の実施

- ASIAGAP、JGAPの団体認証として、JAいわて平泉とJAいずみ野がそれぞれ認証を取得。
- 団体での取り組みにより「関係者の団結力ができた」「全体のレベルが底上げされた」などの声も。
- 現在もJA全体で続々と団体認証を取得している。

団体認証取得事例

岩手県JAいわて平泉ブランド米部会がASIAGAP団体認証

JAグループGAP支援チームや県・JA全農いわて・県中央会の支援で団体認証県内初 岩手県本部

ASIAGAP団体認証のJAグループJの報告会。左からJA岩手県五連の小澤副会長、JAいわて平泉佐藤組合長、いわて平泉ブランド米の小野部会長、同会員の山本さん、全農いわての高橋副部長



今回の認証取得にあたっては、米の新品種が数多くデビューする中、食の安全・安心により一層意識した管理を実施し、ひいてはラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック

岩手県JAいわて平泉ブランド米部会員9人は、10月16日付で県内初のASIAGAP団体認証を取得しました。

クへの食材提供などを通じて、地域農業の振興とブランド力向上を目指し取り組みが始まりました。今回認証を取得した「金色の風」は岩手県産米のフラッグシップであり、JAいわて平泉ブランド部会小野部会長からは「良い品質の米を作り、ブランド力向上に努めていきたい」と今後を見据えた決意表明がありました。JAでは地産地消を基本に地元への認知度向上を図りつつ、輸出も視野に入れて国内外へPRしていきたい、と今後の販売に意欲を示していました。

JAグループは平成20年にGAPの取り組み方針を決定し、JA全中、JA全農、JA共済連、農林中央金庫で取り組む「JAグループGAP第三者認証取得支援事業」によりGAPの団体認証取得に向けた現地アドバイスをしています。

富山県JAいみず野管内のえだまめ生産23経営体がJGAP団体認証

JAグループの支援で県内初の取得 富山県本部



JGAP団体認証を受けたえだまめ部会の皆さん



特産のJAいみず野の黒大豆えだまめ「富山ブラック」

JAグループは平成29年にGAPの取り組み方針を決定し、JA全中、JA全農、JA共済連、農林中央金庫で取り組む「JAグループGAP第三者認証取得支援事業」によりGAPの団体認証取得に向けた現地アドバイスをしています。

富山県JAいみず野管内のえだまめ生産者23経営体は、9月21日付で県内初のJGAP団体認証を取得しました。

豆えだまめで販売額1億円を目指して生産振興しており、選ばれる産地として栽培技術向上だけではなく、GAPの取り組みが不可欠であると考え、えだまめ部会として認証を目指し、今回の認証取得に至りました。部会員の多くが集落営農法人であり、構成員同志は気心が知れており運営しやすい反面、作業者が多く管理や記帳が難しい面もありました。

認証はあくまでも通過点、今後も継続してより良い農場運営を目指します。



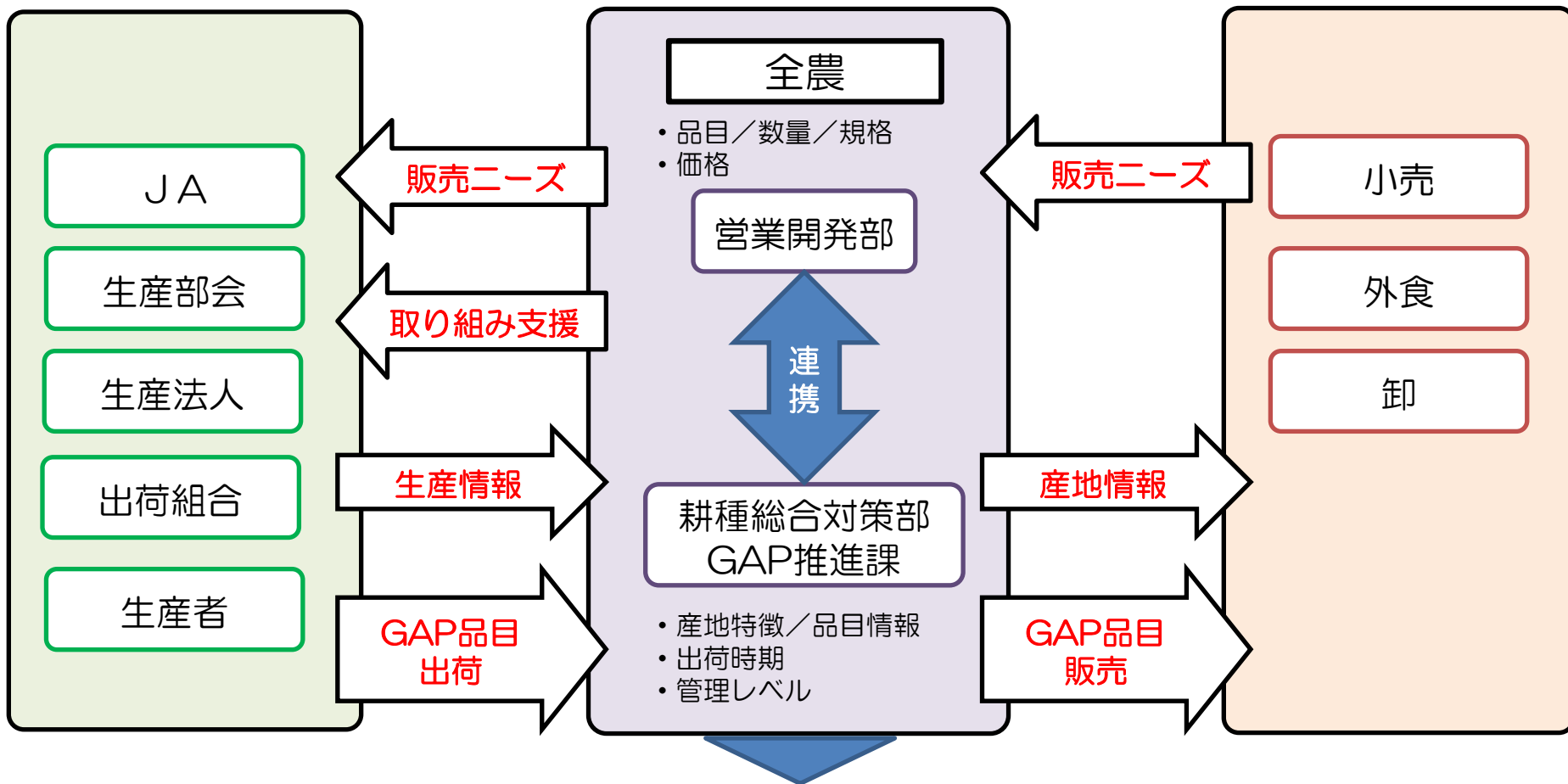
選ばれる産地として栽培技術向上だけではなく、GAPの取り組みが不可欠。

③. 実需者への供給（営業開発部の取り組み）

【生産サイド】

マッチング機能

【実需者サイド】



- 「信頼できる産地づくり」、「産地提案」による関係性を構築
- 情報活用（生産情報・実需者ニーズ）による魅力ある売り場づくり
- 成功事例を実需者・産地・全農で共有、生産振興・商品展開へ応用